

LOBO

業況DIは横バイで推移

日本商工会議所が発表した4月の商工会議所LOBO(早期景気観測)調査結果によると、全産業合計の業況DIは▼16.7(前月比+0.2ポイント)。都市部を中心に民間工事が堅調な建設業に加え、4月上旬の寒波の影響により例年に比べ花見期間が長くなり、客数が増加するなど、インバウンドを含めた春の好調な観光需要を取り込んだ宿泊・飲食業を中心とするサービス業の業況が改善した。他方、受注が減少した半導体や産業用機械、自動車関連の不振に加え、深刻な人手不足の影響拡大や根強い消費者の節約志向、原材料費の高止まりの影響を指摘する声は依然として多く、中小企業の景況感は足元でほぼ横ばいの動きとなっている。

業種別でみると、建設業は受注機会の損失や人件費・外注費の増大など深刻な人手不足、資材価格の高止まりの影響が続くが改善。製造業は半導体関連の受注減少に加えて、産業用機械や自動車関連が振るわず悪化。世界経

済の先行き不透明感を懸念する声が依然として多い。卸売業は原材料・部品など建設業の関連商品の堅調な動きが好材料となり改善。小売業は根強い消費者の節約志向に加えて人件費・輸送コストの上昇分に価格転嫁が追い付かず悪化。サービス業は国内外から春の観光需要が好調に推移した宿泊・飲食業の業況が上向く。また、好調なソフトウェア業や運送業が全体を押し上げており改善。

先行き見通しDI▼18.4(今月比▼1.7ポイント)。改元を契機とする個人消費の拡大や10連休に伴う観光需要拡大への期待感がうかがえる。他方、人手不足の影響の深刻化や、原油価格を含む原材料費の上昇、コスト増加分の価格転嫁の遅れ、貿易摩擦の激化、世界経済の動向、消費増税の影響など不透明感が増す中、中小企業においては、先行きへの慎重な見方を崩していない。

(山形商工会議所を含む全国336会議所の2600企業を対象に調査。回答率72.2%)